

「ヒバクシャ国際署名」を ひろげ世界大会へ

8/4元国連軍縮問題担当上級代表から
核兵器禁止実現への世界の流れをつかもう

いま、「核兵器のない世界」のための「具体的効果的な法的措置」を検討することを中心的な目的とした作業部会が国際連合に置かれ、今年2月と5月の2回にわたって議論されてきました。3回目の会合は、8月の原水爆禁止世界大会の最中に開かれます。

世界大会に参加すれば、セルジオ・ドゥアルテ元国連軍縮問題担当上級代表から、国連作業部会での禁止条約の議論も含め、ずばり、核兵器禁止の行方や私たちの役割について聞くことができます。8月2日の国際会議、4日の開会総会、5日のフォーラムは見逃せません。



セルジオ・ドゥアルテさん

非核平和、戦争しない日本を実現しよう



長尾詩子さん

戦争か平和か、日本の針路が大きく問われています。8月4日の開会総会では、「安保法制廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」呼びかけ人の長尾詩子さん（弁護士、ママの会）が、昨年来の戦争法廃止の市民運動の到達点と今後の展望について語ります。



ヒロシマ・ナガサキの被爆者のねがいをかなえよう



4月から始まった「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」は、被爆者自らの渾身の訴えが共感を呼び、内外で広がっています。

今年の世界大会は、非人道的な核兵器を一刻も早くなくしたいという被爆者の願いをかなえる大会です。8月6日、9日のヒロシマデー、ナガサキデーの集会では、被爆者が署名への思いを語り、被爆の実相を世界へ発信する特別プログラムが組まれます。

関連 行事

8月4日夜には、青年交流集会「Ring! Link! Zero 2016 in 広島 私たちにできること — 被爆者の思いを受け継いで」がおこなわれます。若い世代が集まって被爆証言を聞き、核兵器のない世界へ何をすべきか、国際青年リレー行進者と交流します。8月5日夜には、「核兵器なくそう女性のつどい2016 in ヒロシマ」がおこなわれます。

問い合わせ先 ▼

原水爆禁止世界大会実行委員会

TEL 03-5842-6035 / FAX 03-5842-6033

Web : http://www.antiatom.org/intro_activity/world_conference.html

魅力いっぱい

2016年世界大会 広島 8/5

フォーラム 分科会 うごく分科会



フォーラム

核兵器を国際的に禁止し、廃絶する動きが具体的な行動として開始されています。国際政治と市民社会の共同が重要です。元国連軍縮担当上級代表のセルジオ・ドゥアルテさんをはじめ、政府代表と草の根の市民社会やNGOが交流し議論します。

分科会

① 核兵器全面禁止の行動を一草の根の運動交流

国連作業部会の勧告が秋の国連総会に出されるもとで、禁止条約の交渉開始に努力する非核国政府を後押しする市民社会の役割は決定的です。「ヒバクシャ国際署名」のとりくみを交流し発展をめざします。

分科会

② 非核平和のアジアと日本の役割

朝鮮半島の核をめぐる問題や、緊張が激化しかねない領土問題を抱えているアジア。被爆国であり、平和憲法をもつ日本は、これらの平和的解決の先頭に立たなければなりません。問題解決の道について、アジアの海外代表とともに意見を交わします。

分科会

③ 核と基地のない日本、沖縄との連帯を

辺野古への新基地建設計画を許さないたたかいを強く続ける沖縄と連帯し、日本を非核平和の方向へ変える国民共同をつくる交流をします。

分科会

④ 非核平和の自治体づくり

住民に核兵器の恐ろしさ、被爆の実相を伝える自治体の様々なとりくみを交流し、非核・平和の自治体づくりをすすめていきます。

分科会

⑤ 戦争法を廃止し、憲法生きる日本を

憲法第9条を根本から踏みにじり、米軍主導の戦争に日本が参加できる国にしてしまうのが安保法制＝戦争法です。戦争法を廃止し、閣議決定を撤回させ、立憲主義を取り戻すための共同について交流します。

分科会

⑥ 被爆体験の継承・実相普及と援護連帯

核兵器の非人道性に焦点をあてながら、広島・長崎の被爆者と世界大会に海外代表として参加される被爆者、核実験被害者、核施設被害者が一堂に会し、体験の継承と実相普及、そして援護連帯の諸活動について考えます。

分科会

⑦ 核兵器と原発

川内原発の再稼働、高浜原発の稼働延長の認可決定など「原発回帰」が進んでいます。膨大な使用済み核燃料や45トンものプルトニウムをどうするのか解決が迫られています。原発依存から脱却し、再生可能エネルギーへの転換めざすとりくみを交流します。

分科会

⑧ 軍事費とくらし・平和

実質賃金が5年連続で下がり続け、消費税率が上がり、貧困と格差が拡大する一方、「戦争する国づくり」の動きの中で、防衛費が増やされています。これらの問題の根本を学び、平和で公正な日本と世界の実現に何が求められるのか、議論します。

分科会

⑨ 反核平和の文化

核兵器のない世界へ、被爆者とともに何を問い、どうとりくむか。反核平和の文化活動に携わる被爆者（うたごえサークル員）、戦争体験者（劇団民芸の俳優）、芸術家（画家）の報告を受け、参加者で討論・交流します。

分科会

⑩ 青年のひろば—被爆者訪問、学習と交流

「核兵器をなぜなくすべきか」その原点を学びます。被爆者の方から直接対話形式（少人数）で体験や思いを聞くことを中心にフィールドワークや追体験など「核兵器の非人道性」を学び、被爆者のメッセージを自分なりに受け取ります。

分科会

⑪ 映像の広場

原水爆禁止運動の中で映像文化を積極的に活用することが、「核兵器のない平和で公正な世界」をつくりだす大きな力になります。原水爆禁止運動や核兵器の非人道性を伝える映像作品を鑑賞し、交流します。

動く分科会 ⑫～⑯

岩国基地調査行動、呉基地調査行動、碑めぐり・遺跡めぐり、被爆電車に乗って、似島少年少女のつどい、いずれも参加者が実際に行動することを通じて実感することを目的にした分科会です。毎年、好評です!!